

人為的な生態系の攪乱状況（外来種と在来種の分布状況）

近年、園芸用に輸入された種や飼料穀物に紛れ込んだ種子の自然界への逸出などに伴って、本来は日本に生息しない海外の生物種が侵入し、自然界へ広がっている例が数多くみられます。

このような人の活動に伴う生物の移動と再野生化により、生態的に優勢な外来種（シナダレスズメガヤなど）によって絶滅危惧種（カワラノギクなど）が絶滅に追い込まれたりしています。また、自然界では起こらない交雑によって異なる系統間との雑種が形成され、地域で保有されていた固有な遺伝子の喪失が懸念されています。

ここでは、人為的な生態系の攪乱状況を明らかにするために、外来種や、それらと生態的に競合する在来種の確認状況について整理しました。

【代表的な外来植物の確認状況】

(植物調査)

- アレチウリやブタクサなど、代表的な外来種 9 種全てが確認されたのは 17 河川
 代表的な外来植物として、イタチハギ（クロバナエンジュ）、ハリエンジュ（ニセアカシア）、アレチウリ、ブタクサ、オオブタクサ（クワモドキ）、カモガヤ、シナダレスズメガヤ、ネズミムギ、ホソムギの 9 種の確認状況を整理しました。
 外来種の確認種数が少なかった河川は、北海道地方の渚滑川、網走川、九州地方の山国川と小丸川の 3 種でした。その他の河川では 4 種以上が確認されました。今回とりまとめを行った 43 河川のうち、17 河川において上記 9 種全ての外来種が確認されました。また、前々回から今回の調査結果をみると、外来種の確認河川数が増加し、これらの種の分布範囲が拡大してきている様子がうかがわれます。 (資料掲載: 3-13～3-21、3-26 ページ)

確認河川数の比較（対象河川: 43 河川）

種類	前々回 調査	前回 調査	今回 調査
イタチハギ（クロバナエンジュ）	7 河川	29 河川	35 河川
ハリエンジュ（ニセアカシア）	31 河川	34 河川	37 河川
アレチウリ	27 河川	30 河川	32 河川
ブタクサ	36 河川	37 河川	37 河川
オオブタクサ（クワモドキ）	19 河川	28 河川	34 河川
カモガヤ	28 河川	38 河川	39 河川
シナダレスズメガヤ	33 河川	39 河川	39 河川
ネズミムギ	31 河川	37 河川	37 河川
ホソムギ	24 河川	27 河川	29 河川

マメ科のイタチハギ（クロバナエンジュ）とハリエンジュ（ニセアカシア）は、共に北米原産の落葉広葉樹で、国内には明治初期から大正初期に渡来し、山林の砂防用や護岸用、街路樹などに植えられたものですが、今では各地で野生化しています。河川でも樹林を形成することで、洪水時の水位上昇のほか、地形の変化をもたらすとされています。

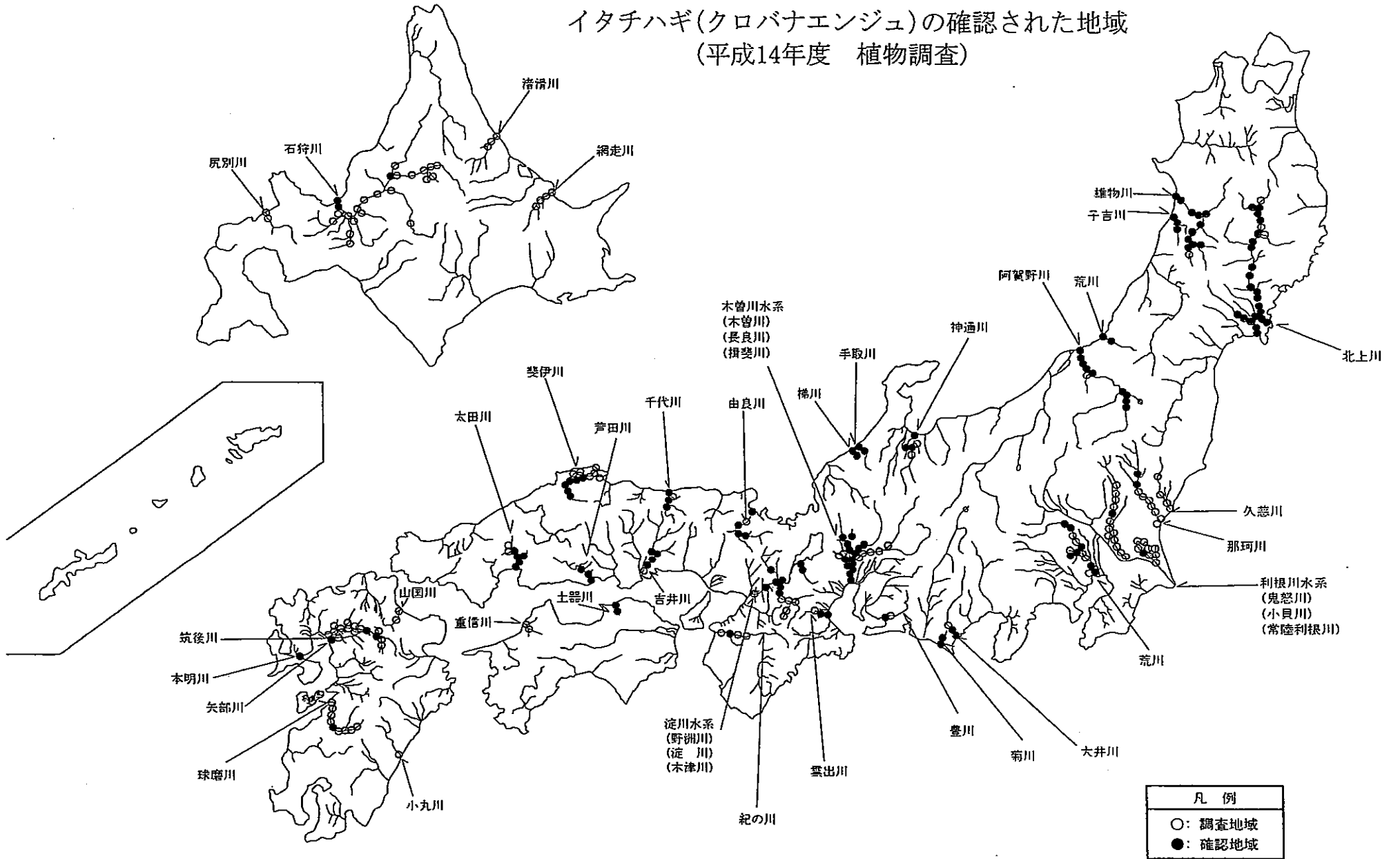
ウリ科のアレチウリは、一年生のつる植物でその場所の植生に覆い被さって生長するため、他の在来植物の生長を阻害するなどの影響が知られています。

キク科のブタクサとオオブタクサ（クワモドキ）は、開花期に大量の花粉を飛散させ、花粉症を引き起こす原因となっていることが知られています。

イネ科の、シナダレスズメギヤは、砂防・緑化・牧草用などに植栽されていますが、河川へと侵入し砂泥の堆積を進めるなどの地形変化を与えるとされています。

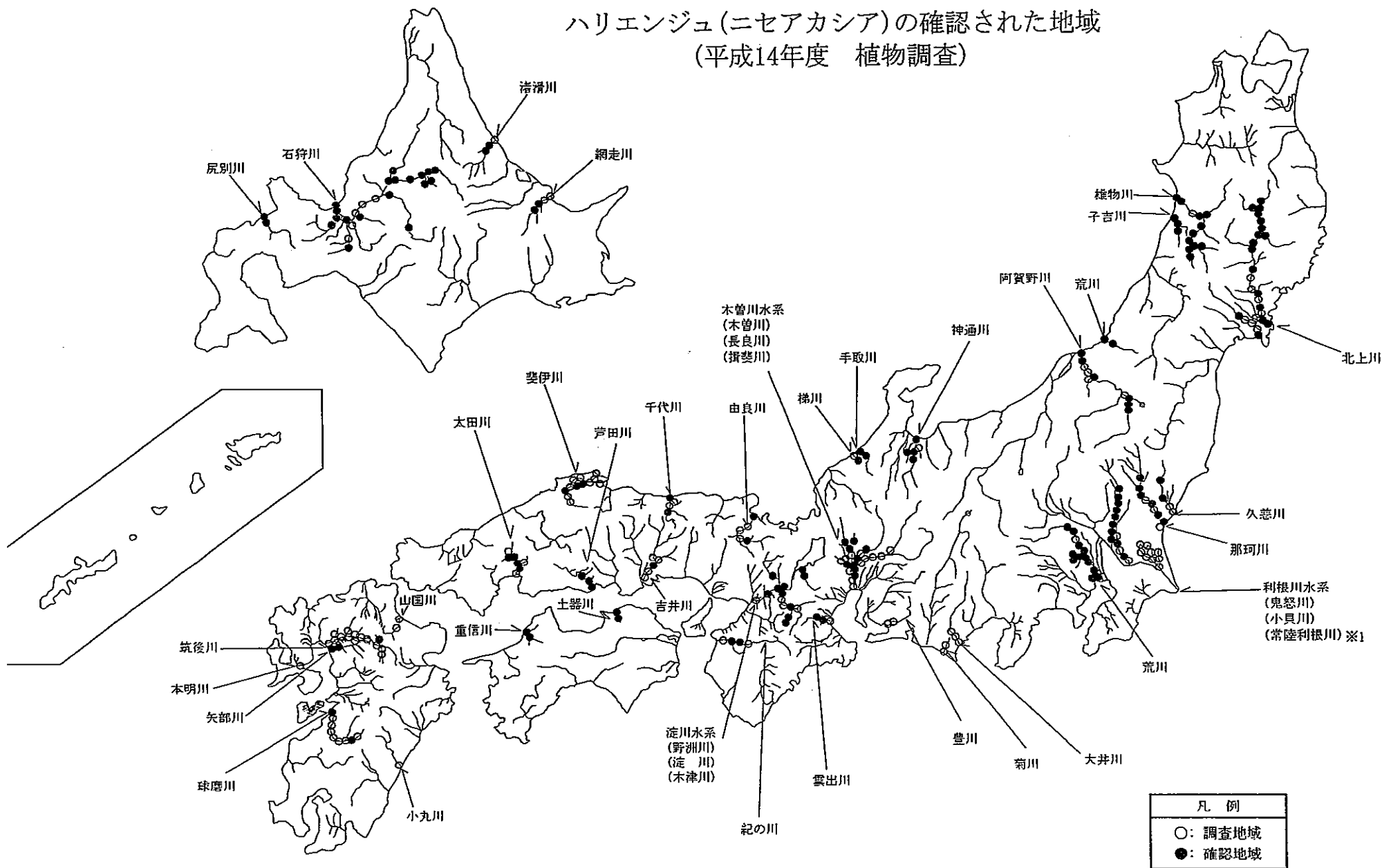
今回とりまとめを行った河川では、これらの種の全国規模の分布が認められました。そのうち、ネズミムギが新たに北海道地方で確認され、分布の拡大が示唆されました。繁殖力が強い外来種は、在来の植物を駆逐し植物群落を大きく変化させています。また、一部の河川では、今回選定したブタクサやオオブタクサ（クワモドキ）が高水敷に優占群落を形成し、人が河川に近づくことを妨げている例もみられています。

イタチハギ(クロバナエンジュ)の確認された地域
(平成14年度 植物調査)



注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。

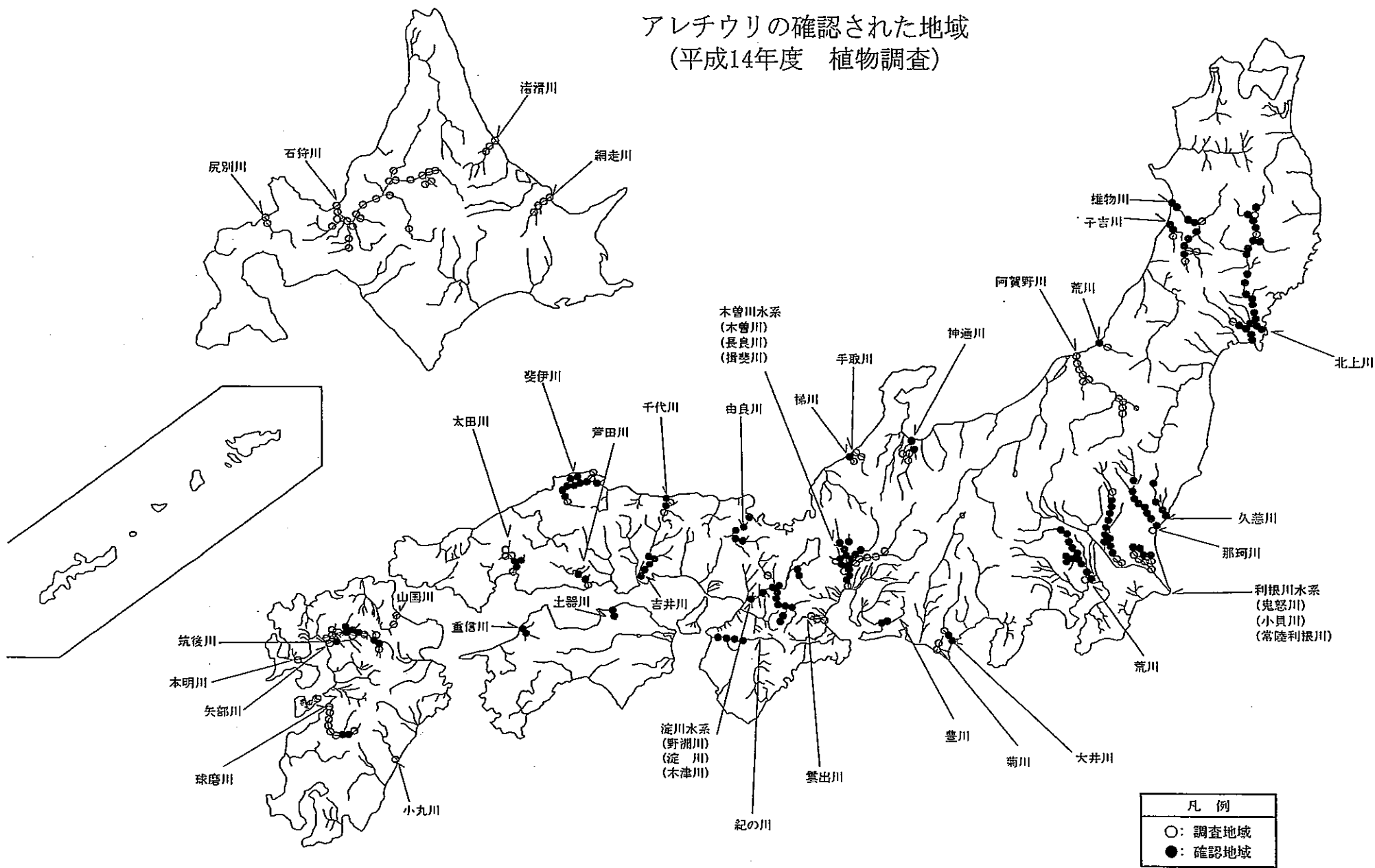
ハリエンジュ(ニセアカシア)の確認された地域
(平成14年度 植物調査)



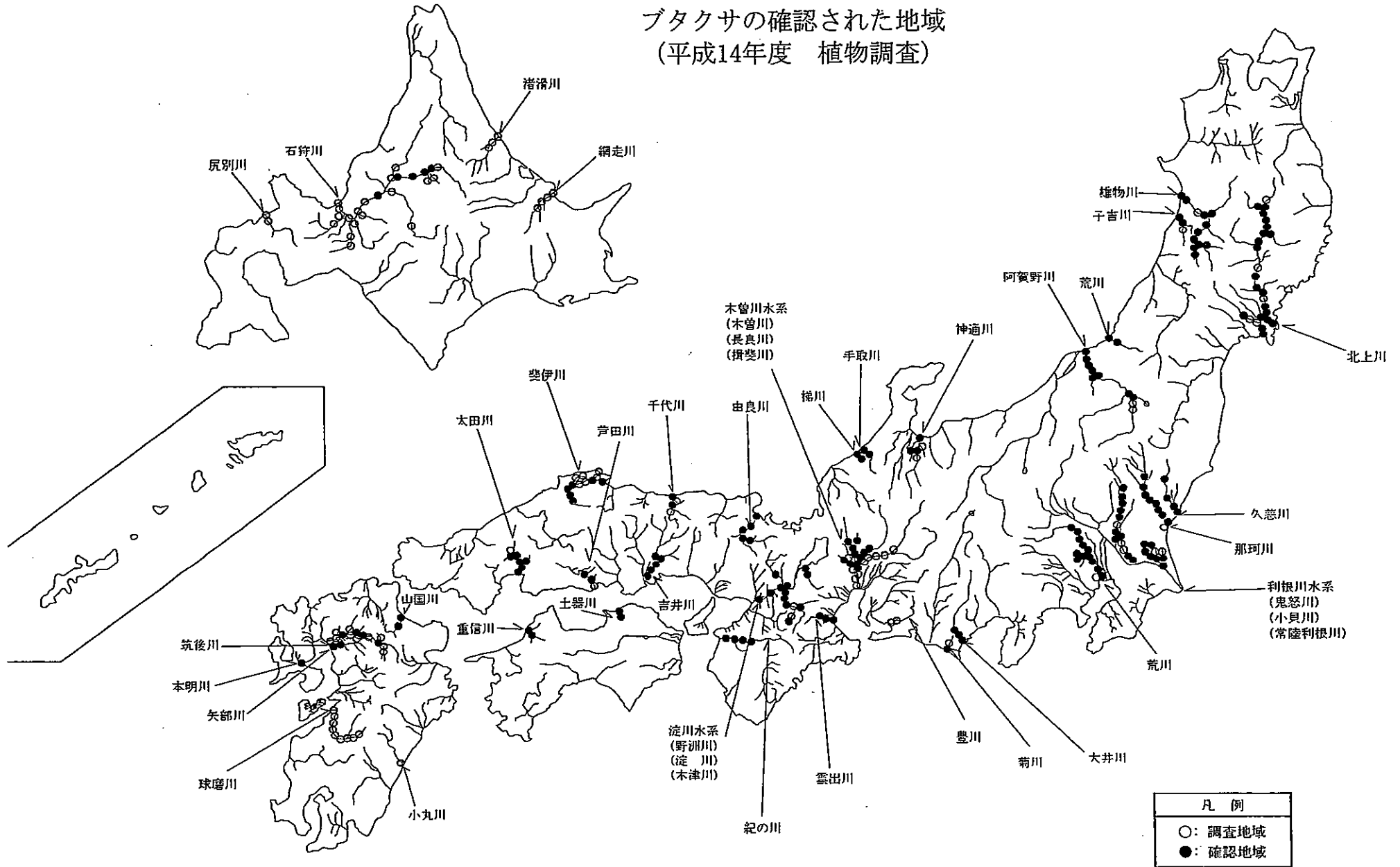
注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。

※1 常陸利根川における確認は、組成調査のみであったため確認地域の●は示されていません。

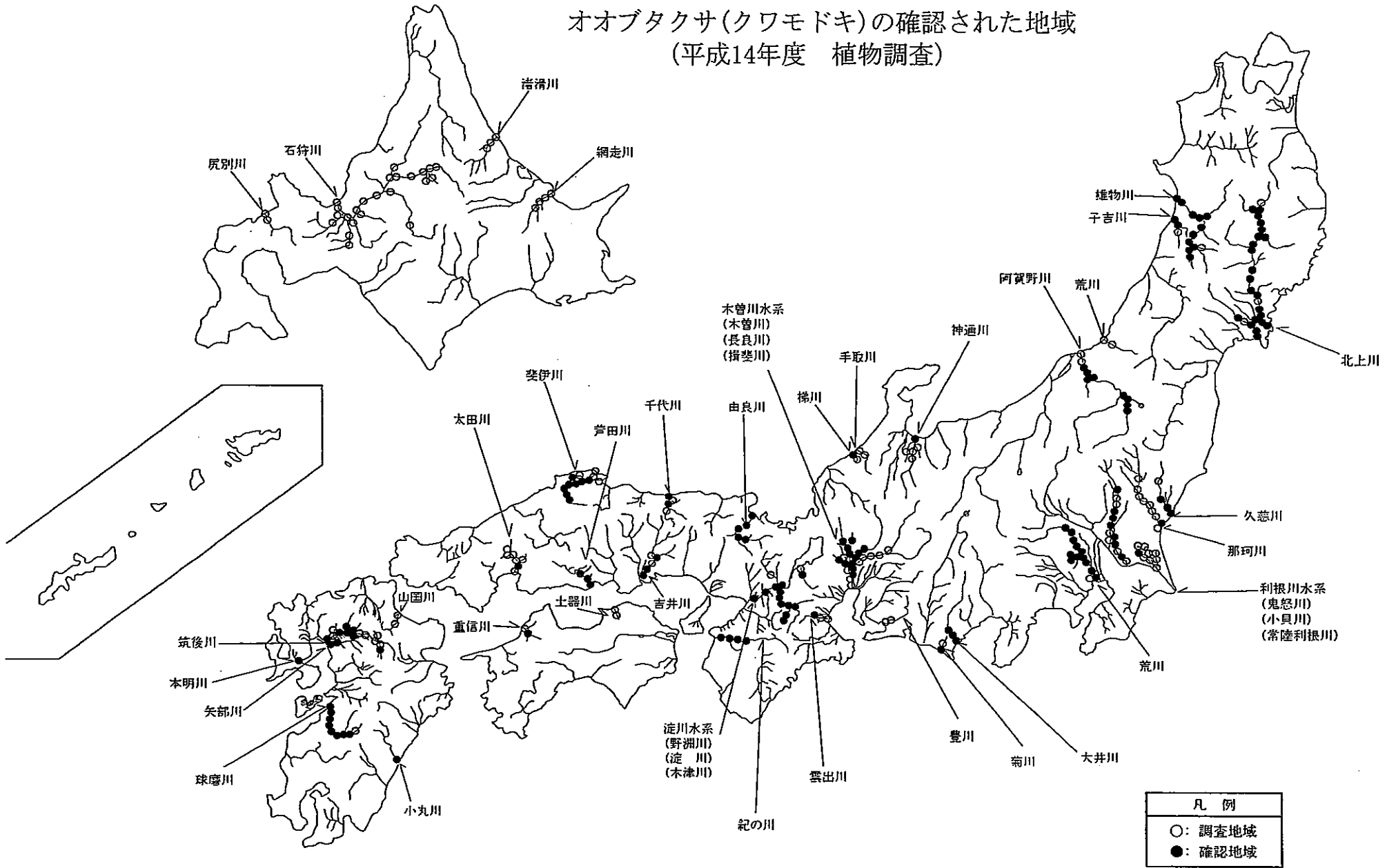
アレチウリの確認された地域
(平成14年度 植物調査)



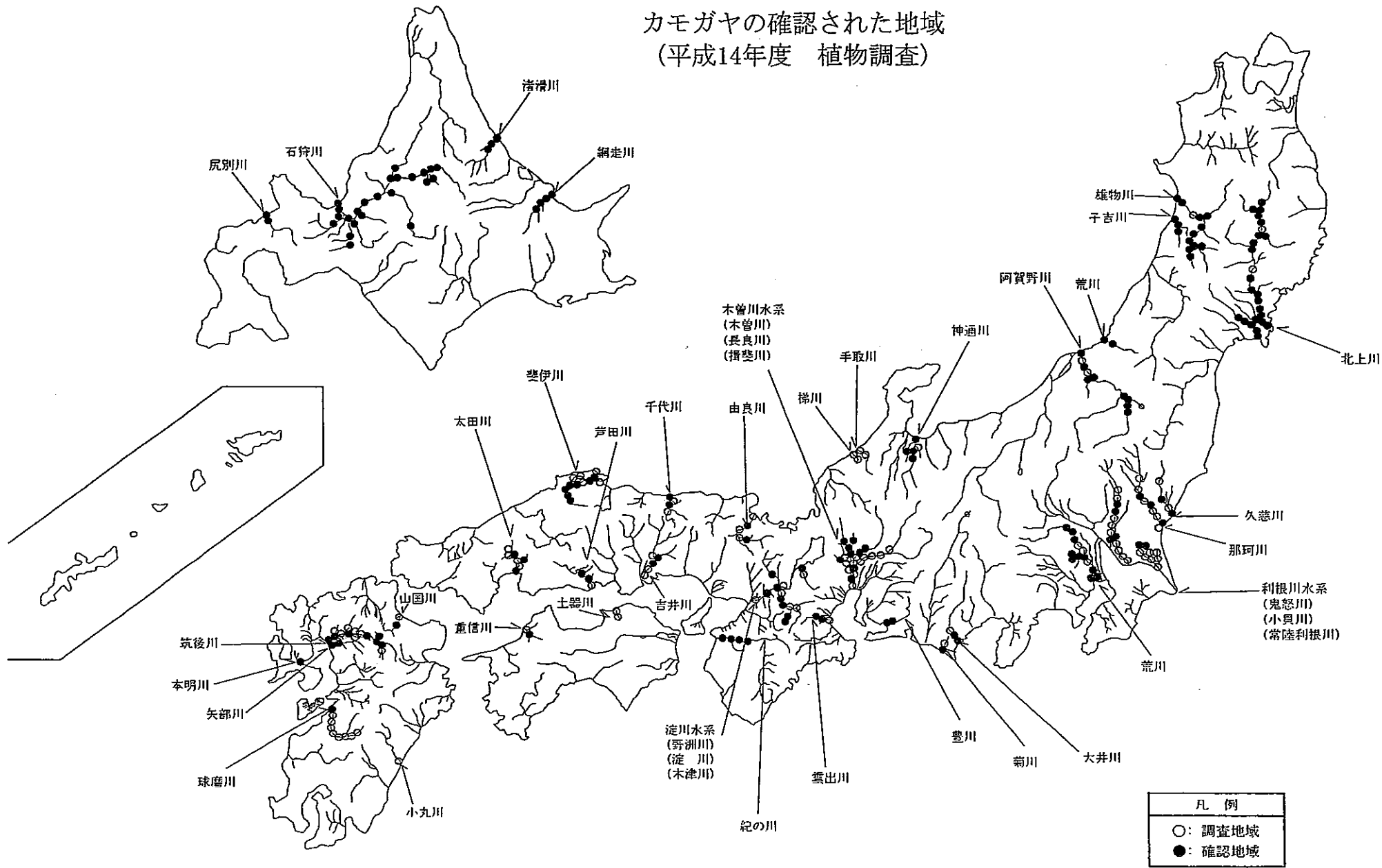
ブタクサの確認された地域
(平成14年度 植物調査)



オオブタクサ(クワモドキ)の確認された地域
(平成14年度 植物調査)

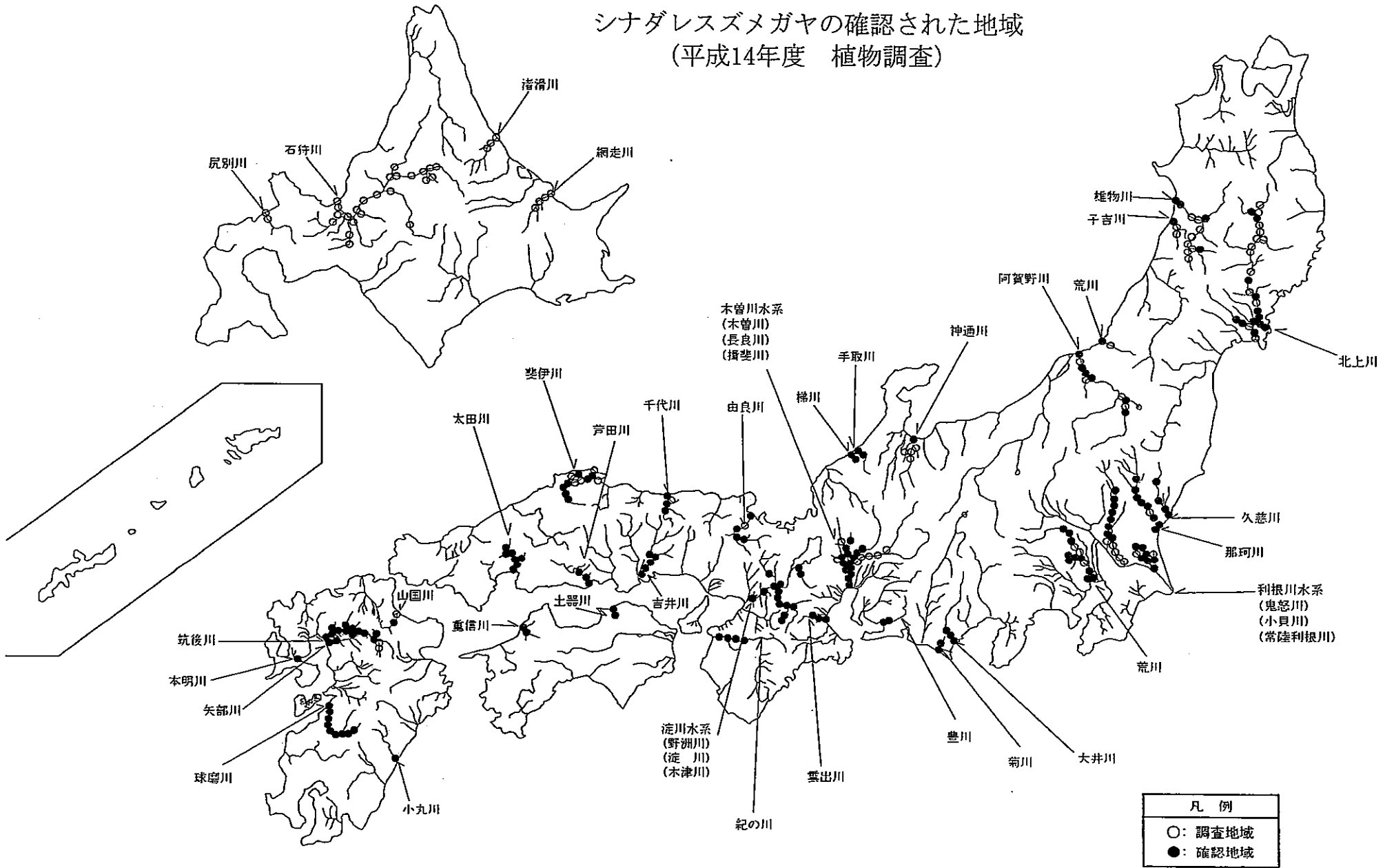


カモガヤの確認された地域
(平成14年度 植物調査)



注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。

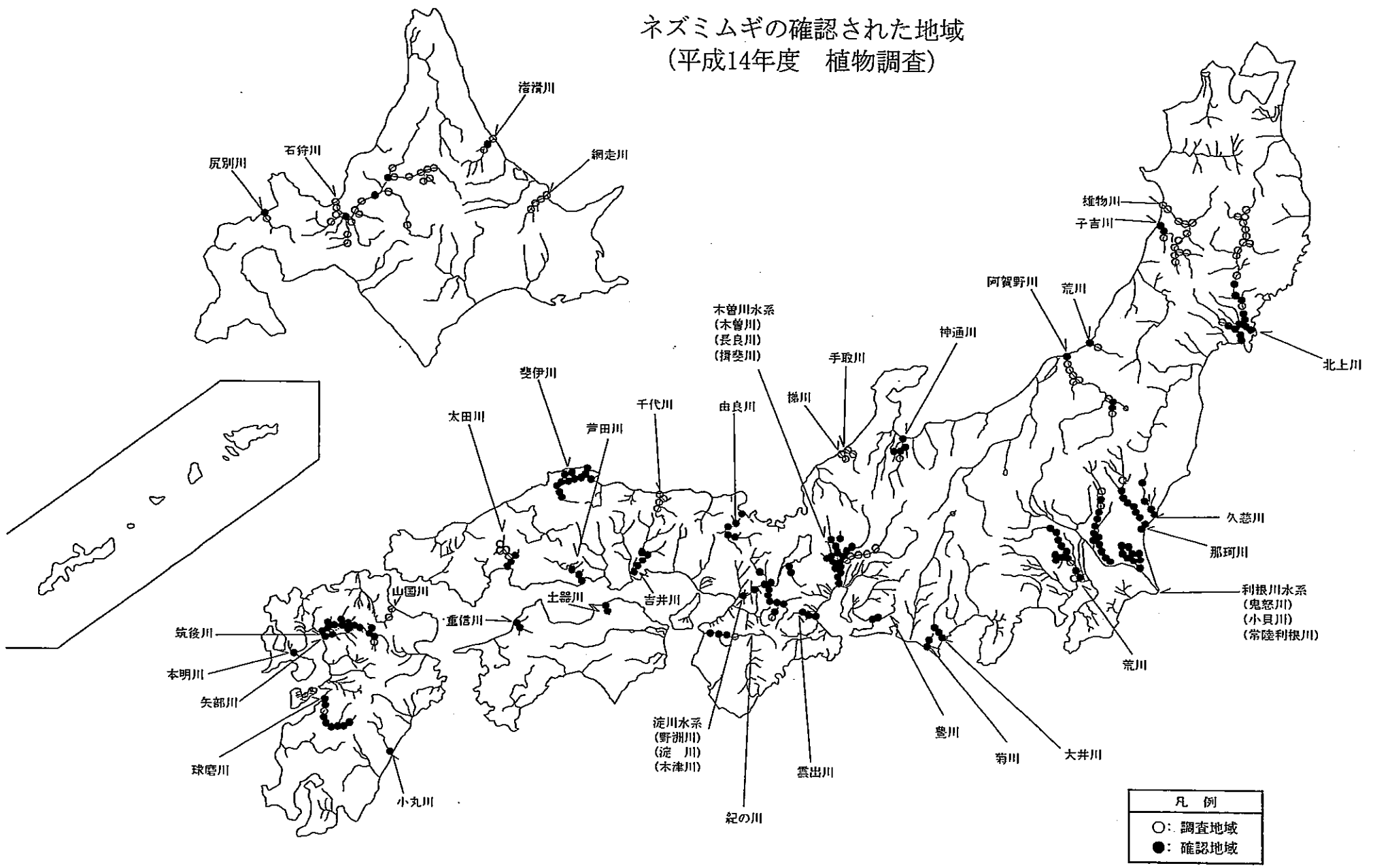
シナダレスズメガヤの確認された地域
(平成14年度 植物調査)



注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。

ネズミムギの確認された地域
(平成14年度 植物調査)

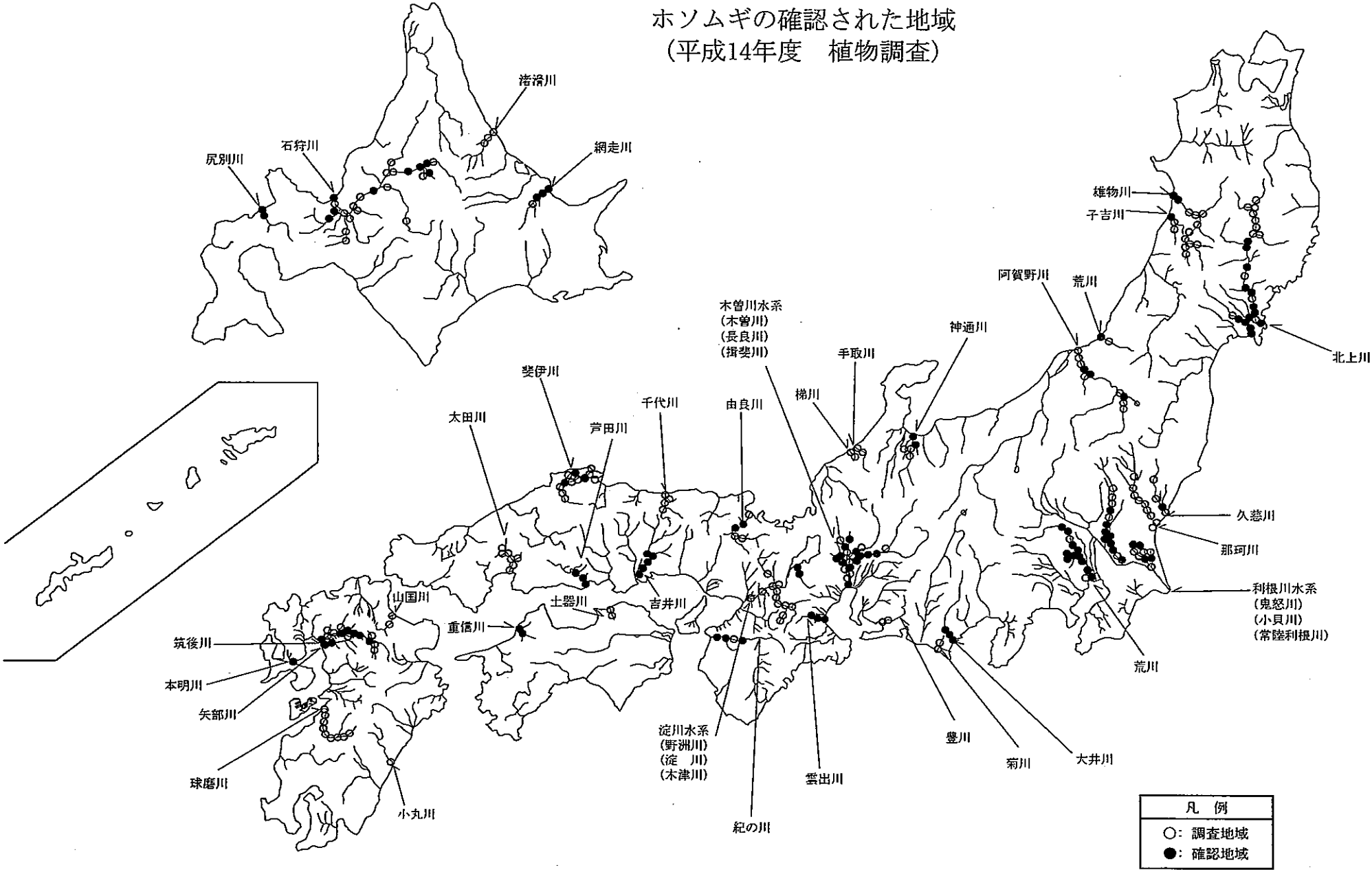
3-20



凡例	
○	調査地域
●	確認地域

注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。

ホソムギの確認された地域
(平成14年度 植物調査)



注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。

- 前々回調査で確認がほとんどなかったナガミヒナゲシ、ユウゲシヨウ、オオカワヂシャを、14～16 河川で確認

近年分布を広げていると言われている外来種として、ナガミヒナゲシ、ユウゲシヨウ、オオカワヂシャの確認状況を整理しました。

前々回から今回の調査結果をみると、これらの種は前々回調査ではほとんど確認されませんでしたでしたが、前々回調査から今回調査にかけて、確認河川数の急激な増加がみられました。
(資料掲載: 3-23～3-25、3-27 ページ)

確認河川数の比較 (対象河川: 43 河川)

種類	前々回 調査	前回 調査	今回 調査
ナガミヒナゲシ	1 河川	9 河川	16 河川
ユウゲシヨウ (アカバナユウゲシヨウ)	0 河川	6 河川	16 河川
オオカワヂシャ	1 河川	7 河川	14 河川

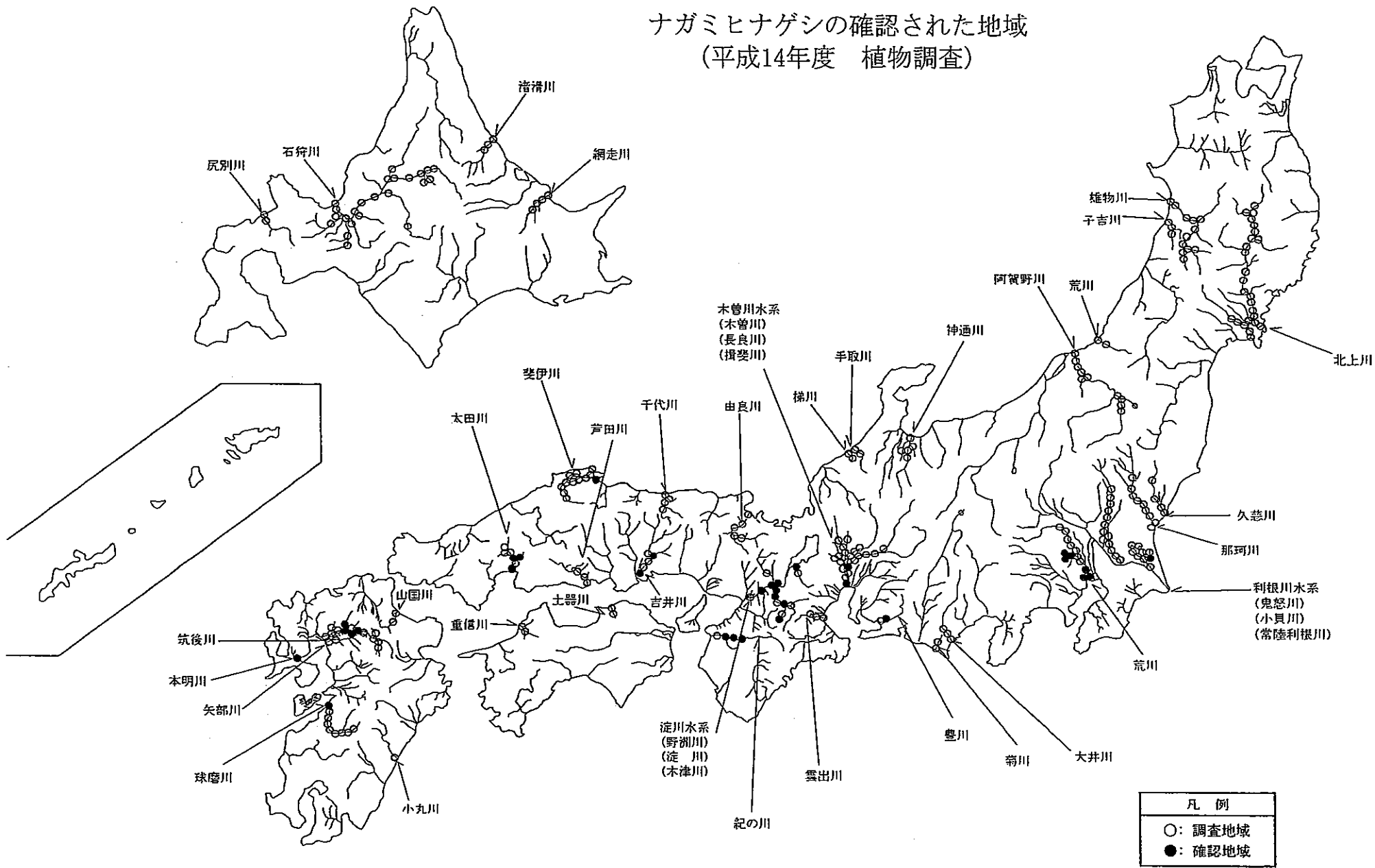
ケシ科のナガミヒナゲシは、地中海沿岸が原産の一年草もしくは越年草で、高さ 10～60cm になります。昭和時代には日本に侵入していたことが報告されています。砂利を敷き詰めたところや土が踏み固められたところのような、他の植物が茂りにくいところに見られます。

アカバナ科のユウゲシヨウ (アカバナユウゲシヨウ) は、北アメリカ原産の多年草で、高さ 7～65cm になります。明治時代には観賞用として栽培されていたことが報告されており、栽培品からの逸出であることがわかります。世界の暖温帯地域に広く分布しています。

ゴマノハグサ科のオオカワヂシャは、ヨーロッパ～アジア北部原産の越年草です。湿地に生育し、高さ 1～2m になります。大正時代には日本で標本が確認されています。

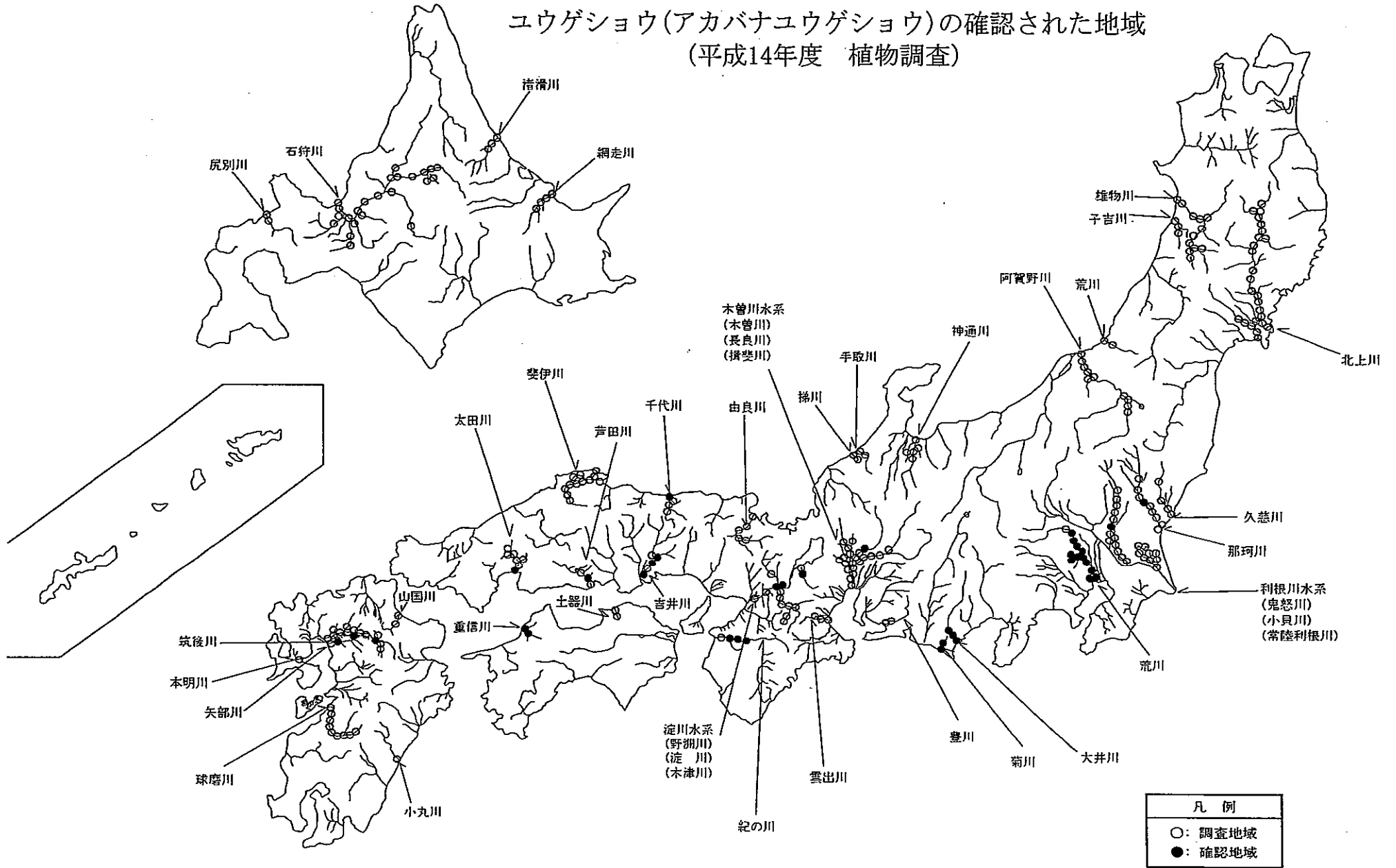
今回とりまとめを行った河川では、特にこれらの種で、近年における分布の拡大傾向が認められました。過去の調査で確認された河川では、引き続き確認される場合が多く、その地域に定着しながら分布を拡大している様子が伺われます。これらのことから、現在ほとんど報告されていないような外来種でも、生育条件等によっては急激に増加する場合もあると考えられます。このように、今後も外来種の確認状況を注意深く見守っていく必要があります。

ナガミヒナゲシの確認された地域
(平成14年度 植物調査)



注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。

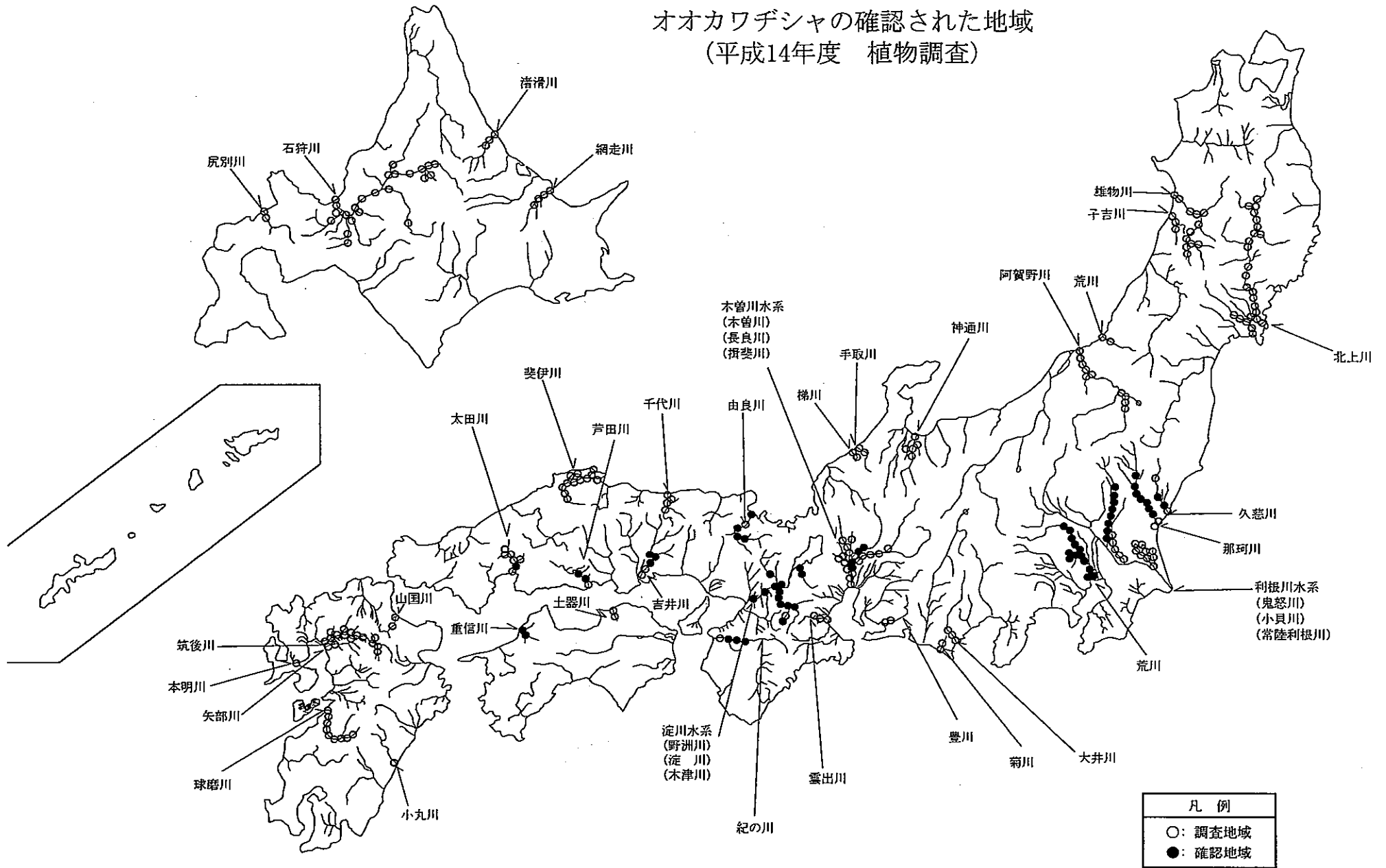
ユウゲショウ(アカバナユウゲショウ)の確認された地域
(平成14年度 植物調査)



凡例	
○	調査地域
●	確認地域

注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。

オオカワヂシャの確認された地域
(平成14年度 植物調査)



注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。